にんにん堂
ママさん観察記
～友達の母に欲情してしまった僕～

「あら、ケ●ジ君こんばんわ♪」
「こんばんわ」

ぎゅ♡

サ●シの母、ハ●コさん。
名前の通り可愛いママさんだ。
自然体で飾らないその立ち振る
舞いに僕は魅了されていた。

ムチッ

レキッ

そこで僕はママさんの
観察を始めた。そして
観察6日目にそれは
起こったんだ・・・

寝室にいるママさんを観察しようとした僕・・・

驚く事にママさんはバ●ヤードにクンニをさせ、自らの指で乳首とクリトリスを弄っていた

「いいわよ、バ●ちゃんザラザラの舌気持ち良いわ」

バ●ヤードの舌で舐めるはママさんに効果抜群の様だ

それにしても慣れている・・・これは日頃から行われているのか？バ●ヤードめ、実はママさんとこんな事してたなんて・・・！

しかし、これで確信した攻めればいける ママさんを堕とせる・・・

翌日、僕はママさんに誘われ
ランチをご馳走になった
明るく気さくなママさん

・・・しかし、僕は見てしまった
ママさんのオンナの一面を・・・
考えだしたら興奮してきた
勃起が収まらない・・・
もう・・・限界だった・・・・・

「ケ●ジくん、止めなさい！
な、何するの!?」

むにん

「いいじゃないですか、ママさんだって
欲求不満なんでしょう!?
昨日だってバ●ヤードとあんな事して」

「えっ!?
何でその事を・・・」

クチュ

クチュ

「ママさん、僕もう・・・」

「・・・ケ●ジくん
本気なの・・・?」

僕はママさんを
ソファーに押し倒した

ぱんっ
ビクッ
あっ
ぱんっ
やっ
ぱんっ
やんっ
ぱんっ

最初の射精は
あっという間だった
そのまま抜かずに再開

程なく
二度目の
射精・・・

再開・・・

また射精・・・
それでも収まらず
僕は腰を振り続けた

ぬ
ピクッ
とお・・・

やってしまった・・・
避難されて当然だ
しかし、ママさんは
何も言わなかった

はあ
はあ
はあ
ピクッ
ドロ・・・♡

5度目の射精で
ママにたっぷり
注いだ僕はここで
我に返った

許してくれるのか？
・・・なら僕はこの
観察を続けるまでだ

翌日、僕はママさんに会いに行った

ちゅっ

んっ

むちゅ

ちゅう

挨拶もそこそこに・・・「あの、今日もその・・・」

「バ●ちゃん今おつかいに行ってるの・・・

・・・帰ってくる前に終わらせましょ・・・」

そう言ってママさんは自ら僕の股間に手を伸ばした・・・

すりっ

すりっ

堪らず僕はキスをした

少し嫌がりながらも

ママさんは僕のキスに応えてくれた

そしてママさんから思わぬ提案があった

「口でしてあげる・・・」

これが
フェラチオ…

はっ

ぺろ

はっ

ぺろ

はっ

んっぽっ

すこっ

すこっ

んっ

んぽっ

ぶぶぶ

ずるるっ

ずずっ

ぶぶぶ

ずもっ

んぐっ

ぶぶぶ

ぶぶぶ

んんっ

もごっ

ずぽぽぽっ

ぶぶぶ

ぷっ

ぷっ

ぶっ

ずっ

ママさん…
エロ過ぎ…

こんなの
我慢出来る
訳ない…

イッ

イクッ！

「床に零れたら掃除が大変・・・」
んはあ♥
はぁ♥
はぁ♥
そう言ってママさんは自分の胸を受け皿にして口から零れる精子を受け止めた・・・
その姿は母の鏡であると同時に立派なメスだった

ケ●ジにフェラした日の夜の自宅にて・・・

あっ♥

ふぅ♥

んっ♥

ぢゅむ、

ぢゅむ、

ぐぷ♪

じぷぷぷっ♪

（ケ●ジくん・・・サ●シの友達の貴方が私を女として求めてくるなんて・・・こんな歳の離れたおばさんに・・・）

（・・・いけない事なのに私、ドキドキしてる・・・この関係を続けたいと思ってる・・・）

（ケ●ジくんがこんなおばさんでいいのなら・・・）

観察は続いた

「ケ●ジくん・・・
掃除の途中よ・・・」

「僕は今すぐママさんと
ヤりたいんですけど・・・」

スル・

むにっ

すりすり・

キュンキュン

「・・・分かりました
いいですよ、続けて下さい」

「？」

「さあどうぞ
掃除を続けて下さい
その代わり、ま●こは
使わせて下さいね♪」

前戯無しでも
すんなり入る
ママさんま●こ
最高だな

この熟れた
お母さんま●こに
僕はすっかり虜だ

ビクッ♥

あっ♥
んっ♥

あっ♥
ああん♥

ビクッ♥

ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥

ブギュッ♥
ブボッ♥
[redacted]
ブプッ♥
ブギュッ♥

今回は趣向を
変えて観察してみた

ドキ

ドキ

「いいですね
似合ってますよそのショーツ
買ってよかったですよ」

「ねえ、ケ●ジくん・・・
これは流石にまずいわ・・・」

ムキッ

「大丈夫ですよ
ちょっとオ●キド博士の
研究所に行くだけじゃ
ないですか」

ムチッ

「そんな・・・」

ドキ…
ドキ…

「おや、ママさん何か御用ですかな？」

「いえ、その…近くを通ったものですから…ご挨拶をと…」

「そうですか、そう言えばケ●ジを見てはおらんですか？おつかいを頼みたいんじゃが見当たらなくて…」

「さ、さあ…見てませんわ…」

（僕におつかい…それならママさんと…）

ぬちょお～…

オ●キド博士の
おつかいを引き受けた僕は
着替えをしたママさんと
ト●ワシティに来ていた

「ケ●ジくん・・・
本当に大丈夫？」

「ええ、誰も
気付いて
いませんよ
今の所は・・・」

ドキ
ドキ♥

ぬぎ♥

むっちん♥

むっちん♥

「ちょ、ちょっと・・・！
イジワルしないで・・・」

「大丈夫ですって
ほら、もっと足開いて」

マ●ラタウン
在住
欲求不満
ドスケベ人妻
ハ●コ29歳

帰り道
ト●ワの森にて

「ケ●ジくん・・・！
家に帰ってから・・・」

「無理です！
ここで一度ハメないと
収まりませんよっ!!」

あっ

あんっ

「やだ、みんな
集まってきてる・・・
虫よけスプレーを・・・」

「ありません！
我慢して下さい!!」

「こんな格好・・・
恥ずかしいわ♥」
商店街のくじで
当たったア●ーラの
プライベートビーチ
貸し切旅行ペアチケット
ママさんと同行したのは
勿論、僕だた
ビーチに着くなり
用意していた衣装に
着替えてもらった
Chuv
MOM
恥ずかしがるママさん
うう・・・
股間がうずく・・・

「白昼堂々ビーチで
セックスだなんて…
大胆にもほどがあるわ♥」

あっ♥

ドキ♥

んっ♥

あはっ♥

ドキ♥

「構いませんよ！
プライベートビーチ
なんですから！」

パチュン♥

ぐぷぷ♥

ぐぷぷ♥

パチュン♥

ぐぷぷ♥

パチュン♥

ぐぷぷ♥

「ここには僕達
二人っきりです！」

「ケ●ジくんと…
二人っきり…♥」

ふっ
ふんっ
じちゃん
ばちんっ
じちゃ
ばちんっ
ばちんっ
じちゃ
ばちんっ
ばちんっ
じちゃ
ばちんっ
じちゃん
ふっ
ふんっ
「ケ●ジくんっ♥
ケ●ジくんのち●ぽっ♥
今日も素敵♥おばさんの
おま●こ喜んでるわっ♥」
二人きり・・・
ビーチでの解放感
それに興奮した
ママさんは
年甲斐もなく
腰を振り続けた
「まだまだよ・・・ケ●ジくん♥
火がついちゃったからには
おばさん頑張っちゃうん
だからっ・・・♥」
「マ、ママさん・・・！
これ・・・ヤバいです！」

ポ●モンのコスプレをして
もらったので今日一日僕の手持ち
ポ●モンとして加わって貰った

「ほら、仲間達に
挨拶しなきゃ
ダメじゃないか」

「は、はい・・・
ケ●ジ様・・・♥
電気ねずみ
メスポ●モンの
ハ●コ・・・です♥」

ムチ、

ムチ

「よし、良い子だ
皆にはこれから
僕とハ●コが仲良く
遊ぶ所を見ててほしい」

「え・・・ケ●ジ様
それは・・・♥」

「ほら、皆見てごらん僕のち●ぽで感じてるハ●コだよ♪」

あっ

ピクッ

うっ

ピクッ

んんっ

「それとハ●コはこうしてお尻をぎゅって締まるんだ」

（やだ…♥見られてる♥）

（あなた達のご主人様に犯されてるおばさん…見られちゃってる…♥）

（お尻叩かれて感じてるスケベなおばさんなの…♥）

ばちんっ

じん

ばちんっ

じん

「流石ハ●コ、子供産んだお母さんポ●モンだけどまだまだ現役だな♪」

ベッドへ行きたっぷり
3時間遊び倒した

「今日はこの辺で
お終いにするか・・・
戻っていいぞハナコ」

「ケ●●ジ様・・・♥
もっとしてぇ・・・♥」

「やれやれ・・・
しょうがないな
あと一回だけだぞ」

「♥♥♥」

ママさんの観察を
始めて一ヵ月が過ぎた
最近ではママさんの方から
誘ってくる事も増えてきた

「ママさん、今は
まだバ●ヤードが・・・」

「いいじゃないそんなの♥
生理前だから身体が疼いて
しょうがないの・・・♥
ね？お願い・・・抱いて・・・♥」

こんな素敵な誘い
断われる訳がない

ピラ♥

僕達は付き合って間もない
学生カップルの様に毎日
身体を重ねた・・・

僕はママさんをパコって
パコってパコりまくった

友達の母の中で
僕は何度果てただろうか
終わる事のない欲望を
ぶちまけてきただろうか

僕は生まれて初めて知る
女の身体に・・・
ママさんは久しくご無沙汰
だった性行為に・・・
互いに夢中になっていた

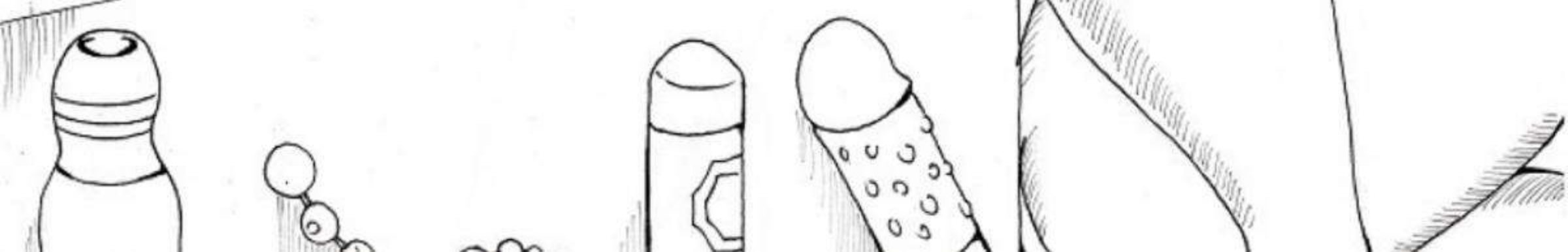
ママさんのパイズリ中に
サ●シから連絡がきた

「それじゃあ、明日の夕方には
そっちに着くからね」

「ええ、楽しみにしてるわ♪」

「ママ、どうしたの？
顔が赤いよ？」

「そう？ちょっと熱っぽい
ような・・・薬飲んでおくわね」



「ママの料理
楽しみだな♪」

「腕によりを掛けるわ♥
ケ●ジくん、コショウ
取ってくれる？」

「はい、ママさん♥」

んっ♥

あ♥

「悪いなケ●ジ
手伝ってもらって」

「久しぶりにサ●シが
帰ってきたんだ
友達として当たり前さ」

「ありがとな
ケ●ジ！」

もみ♥

もみ♥

ヴィン

ヴィンヴィン

「ママさん、これ
よ～く揉んで
しっかり
混ぜないと…♥」

「そ、そうね…
念入りに揉んで…
混ぜないとね…♥」

サ●シが風呂に入ってる間に
ちょっとしたお楽しみ…♪

カチッ

クリクリ

「ママー！
シャンプー
きれちゃったよ！」

「え？
シャンプー？」

ピクッ

んっ

はっ

「え…
えーと…」

ピクッ

じわ…

ブブブブブッ！

ブイイイッ！

「洗面所の棚の中に
新しいのあるから…
それを使って頂戴…」

おやおや、勝手に
乳首を弄り始めたよ
ママさん結構
ノリノリだな♪

「あれ？ケ●ジのやつどこ行ったんだ？」

「ケ●ジくんならオ●キド博士に呼ばれたとかで帰ったわよ」

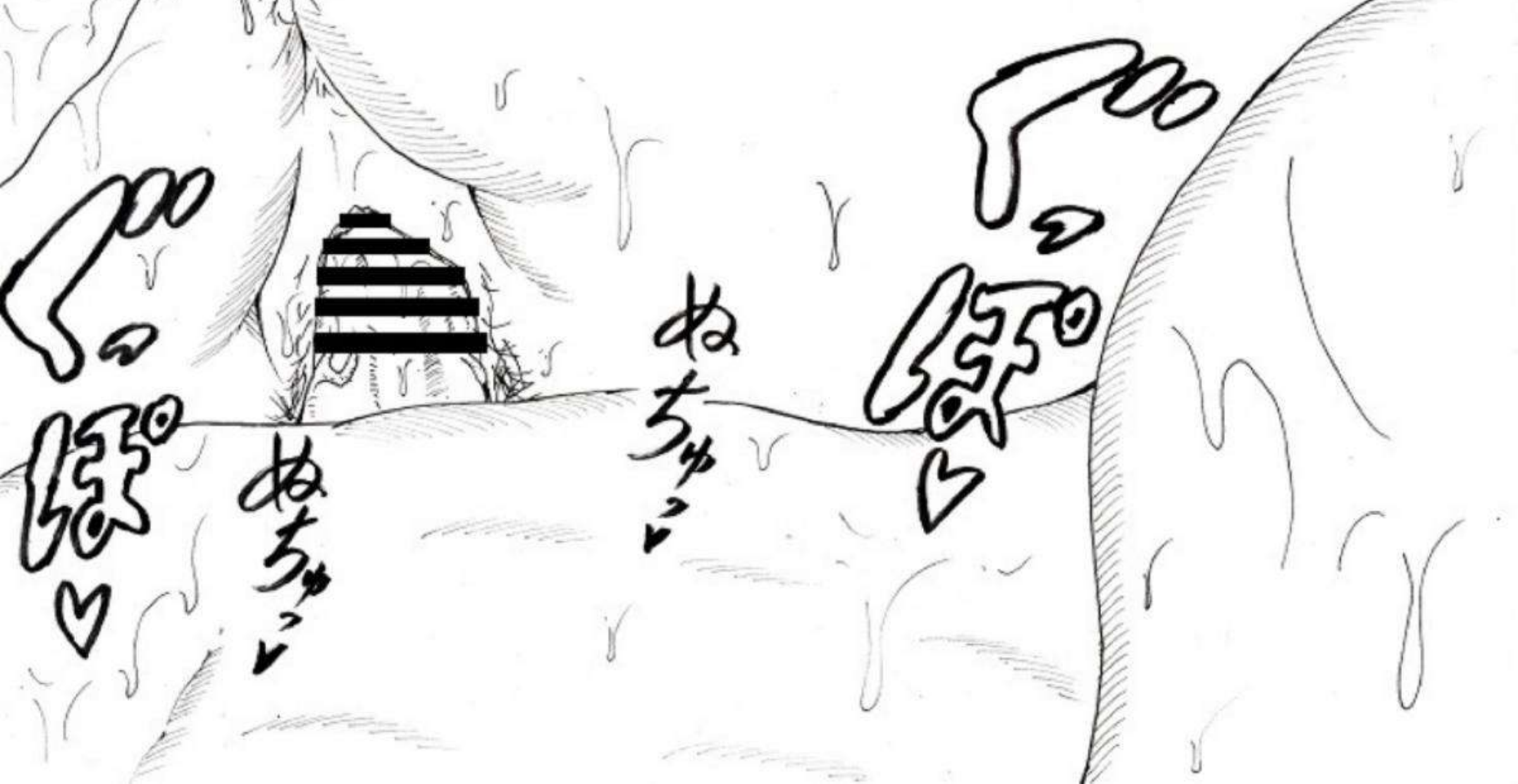
「そっかー・・・ならしょうがないな！」

実はサ●シが風呂から出た時にこっそりママさんと風呂に入ってたりして・・・♪

むにっ♥

ぬちゃっ♥

ぬちゃっ♥



「よし、寝てるな・・・ママさん
僕の言った通りに・・・♪」

「・・・これで・・・
いいのよね・・・？」

ん・・♥

ムンッ♥

「ピ●チ●ウのコスプレじゃなかった
だけ有難く思って下さいよね♪」

「ごめんね
サ●シ・・・」

「うわ・・・ママさん
エロ過ぎ♪
腋毛がこれまた
いやらしい♪」

はぁ・・♥

むっち♥

「ケ●ジくんが剃るなって
言うから・・・♥ああ・・・
息子の前でこんな・・・♥」

ムンッ♥

じーーーッ

むっち♥

「ケ●ジくん…
もう少し静かに…
サ●シ起きちゃう♥」

んっ♥

ふっ♥

んんっ♥

ぢゅぷぷっ♥

ぐーーっ！

「大丈夫ですよ！
コ●パンの眠り粉
ですから騒いだって
暫くは起きません！」

ぷぷぷ

ぷぷぷ

ぷぷぷ

ジュプッ

ジュプッ

ジュプッ

「で、でも…♥」

「心配性だなあ
今は僕のち●ぽに
集中して下さい！」

「ケ●ジくんの
ち●ぽに集中…♥」

「そうです！
ママさんの
大大大好きな
ち●ぽですよ！」

「～～～♥」

「凄いっ❤いいわっ❤
ケ●ジくんこれ凄い❤」
あぁっ♡
あんっ♡
あんっ♡
ぢゅぷぷっ♡
ぢゅるるっ♡
「下からガンガン突いてくるっ❤
ケ●ジくん逞しい❤男らしいわっ❤
メスを喜ばす立派なオスよぉ❤」
パンッ
パンッ
パンッ

サ●シが側で眠る中、僕はママさんに何度も中出しをした

最後に寝てる息子と一緒に記念撮影♪

ママさんの観察はこれからも続けるつもりだ

ママさんGETだぜ☆